

## R7年10/31 多職種連携研修会結果報告

テーマ 「入退院支援から在宅療養に至るまで」

参加者 65名 (アンケート回収60名 回収率:92%)

開催日 2025年10月31日(金)

平均年齢 45.6歳

会場 プラットおむら4階 大会議室 (対面のみ)

### 【内容】

今回で2回目となる本研修は、大村市タウンホスピタル構想「ときどき入院はぼ在宅」の理念に基づき「入退院支援から在宅療養に至るまでの連携にかかる支援」をテーマに、9職種の皆さまが一堂に会し、ワールドカフェ方式によるグループワークを通じて活発な意見交換を実施。

### 【グループワーク集計結果】

研修会のグループワークでは、多職種連携における課題として頻出順に「情報共有不足」「退院支援の困難さ」「多職種連携の不備」「制度・環境面の問題」が出た。

まず、「情報共有不足」については、急な退院連絡や情報伝達の遅れ、ICT活用不足(FAXや電話への依存)が指摘された。改善策としては、ICTやAIを活用した情報共有の仕組みづくりと効率化、退院前カンファレンスの強化、多職種の役割を明確化し参加を促すことが求められた。

次に、「退院支援の困難さ」では、カンファレンス参加不足や連携室への負担、認知症・独居・低所得者への支援の難しさが挙げられた。これに対しては、役割の明確化と連携促進、制度理解や地域資源の把握・整備が改善の方向性として示された。

また、「多職種連携の不備」では、職種間の役割認識のずれ(ケアマネが便利屋化していないか、薬剤師の参加が十分ではないのでは)、訪問看護師やヘルパーの役割不明瞭、さらに、薬の重複など服薬状況の把握困難、義歯管理や口腔ケアの理解不足といった問題が生じている。これに対しては、職種間で意見交換できる場の構築が必要とされた。

最期に「制度・環境面」では、代行になると介護申請そのものが遅れがちであることに加え、代行申請を含む具体的な申請方法だけでなく、各種機関などが担う役割や支援の範囲についての認識が十分でない、あるいは申請場所を把握していない職種が存在するなどの知識不足が課題として挙げられた。

以上のように、情報共有の仕組みづくり、役割の明確化、制度理解・社会資源の促進、意見交換の場の構築といった改善の方向性が、多職種連携を円滑に進めるために重要であると整理された。

### 【アンケート集計結果】

Q5チーム力向上の実感については、約95%の人が「チーム力が高まった」と回答。Q6多職種連携への活用度は、ほとんどが「今後の業務に活かせる」と、実践への意欲が高い。Q7今後取り上げてほしいテーマは日常支援・急変対応・入退院支援が特徴取り扱い支援は関与度に差があるため、職種ごとの役割や連携のあり方を明確にする研修が有効の可能性があり、今後の対応として、職種ごとの関心の違いを踏まえたテーマ設定も検討する。

Q8自由記載では、多くの参加者が「他職種の意見が聞けて良かった」「連携が深まった」と研修に肯定的に評価が多く、実務に直結する課題(退院後の受け入れ、認知症対応、職能理解など)への気づきが多く見られた。

ワールドカフェ方式やグループワークが「楽しかった」「話しやすかった」と研修形式への評価も良かった。時間配分、進行の工夫、アイスブレイクの有無など、運営面での改善提案もあった。今後についても「また参加したい」「協力していきたい」「必須の研修」といった継続への意欲が多数あり。

### 【成果・課題】

医療側の「医療現場の迅速な対応」という思いと、地域側の「地域支援における人間関係や生活背景への配慮」という思いとでは、スピード感や温度差に違いがあり、時にはその違いが誤解や理解のずれを生むこともある。だからこそ、互いの立場や背景を尊重し合い、相手の視点を丁寧に理解しようとする姿勢が、連携をより円滑にするうえで重要だと感じた。

先ほどのグループワークの内容やアンケートの集計結果からも、「ICT・AIを活用した情報共有の仕組みづくり・効率化」「役割の明確化・連携促進」「職種間で意見交換の場の構築」といった改善の方向性が、多職種連携を円滑に進めるために重要である。

今後の企画としては、職種ごとの関心テーマに応じた研修の実施や、各職種の役割や連携のあり方を明確にする研修など職種理解を深めるとともに、各職種と協働して企画・提案を行い、連携の幅を広げる取り組みづくりを検討したい。

さらに、多職種が参加し各職種で出た意見を整理・検討する場の設置や、グループワークで繰り返し指摘された「連携強化を支えるツール」の検討、また、必要な職種に制度理解、地域資源などの把握を促す取り組みも推進していきたい。

### 【グループワーク集計結果】 ※グループワーク内容は話し合った内容の付箋メモを転記

頻出順 課題	今後の方向性
1.情報共有不足 急な退院連絡・情報の遅れ ICT活用不足(FAX・電話依存)	1.情報共有の仕組みづくり(ICT・AI活用)と効率化 退院前カンファ・担当者同士の意見共有の仕組み強化 マンパワー不足の解消
2.退院支援の困難さ カンファ参加不足・連携室の負担 認知症・独居・低所得者への支援困難	2.役割の明確化・連携促進 職種の役割明確化と参加促進 制度理解、制度・地域資源などの把握・整備
3.多職種連携の不備 役割認識のずれ(ケアマネ便利屋化、薬剤師の参加認識) 訪問・ヘルパーの役割不明瞭	3.職種間で意見交換できる場の構築
4.多職種の役割理解不足 薬の重複・服薬状況把握困難 義歯管理・口腔ケアの不足 代行申請の遅れ、手続き場所を把握していない	

## 【アンケート集計結果】



## Q8 研修感想

### 研修感想

多職種の意見交換ができると良かった

「様々な職種の視点・意見が聞けて良かった」

「職種の垣根を越えて意見が聞けた」

「日頃会えない方と意見交換できてありがたかった」

「とても有意義な研修だった」「とーても楽しかった」

ワールドカフェ方式の評価

「色々な方と話せて良かった」

「15分ずつのグループワークが楽しかった」

「アイスブレイクを削っても話が盛り上がりそう」

今後も継続希望

「今後も参加したい」「この研修は必須です。がんばりましょう！」

### 多職種連携・役割理解と理解の深化

他職種の役割理解が進んだ

「ヘルパーのスキルが向上していることが理解できた」

「薬剤師や歯科医への依頼がしやすくなった」

「薬剤師の職能が伝わって良かった」

連携の必要性を再認識

「高齢者や認知症の増加により多職種連携が必要」

「それぞれの職種の考え方は違っても、目指す支援は同じ」

顔の見える関係づくり

「顔の見える関係が築けてよかったです」

「医師がざっくばらんに話してくれて親しみが持てた」

### 学び・気づき

新たな視点の獲得

「新しい考え方や言葉を知ることができた」

「退院後の受け入れ先選択の困難さを学んだ」

「MCSについて詳しく知りたい」

共感・共有の場としての価値

「SWとして同じジレンマを共有できて気持ちが晴れた」

「愚痴も出たが、率直な意見が聞けてよかったです」

### 改善点・要望

運営面での配慮

「グループ自己紹介時に横から話され、意見が聞けなかった」

「写真撮影はなくてもよいのでは」

「ゲームで手にのりがついたのが気になった」

時間配分の見直し

「もっとディスカッションの時間が欲しかった」

「他の方の意見をもっと聞きたかった」